

(仮称) 小柴貯油施設跡地公園の基本計画(案)について

小柴貯油施設跡地については、平成 17 年の返還後、平成 20 年 3 月に都市公園利用を内容とする小柴貯油施設跡地利用基本計画の策定などに取り組みながら、国と用地の取扱いについて調整を進め、平成 25 年 2 月に国有財産の無償貸付方針が決定されました。

これを受け、小柴貯油施設跡地利用基本計画に基づいて(仮称)小柴貯油施設跡地公園として基本計画案をとりまとめました。今後、市民意見募集を行ったうえで、環境影響評価など公園整備へ向けた手続きを進めていきます。

1 旧小柴貯油施設の概要(別紙「1 地形等現況図」)

土地の所在：金沢区柴町外

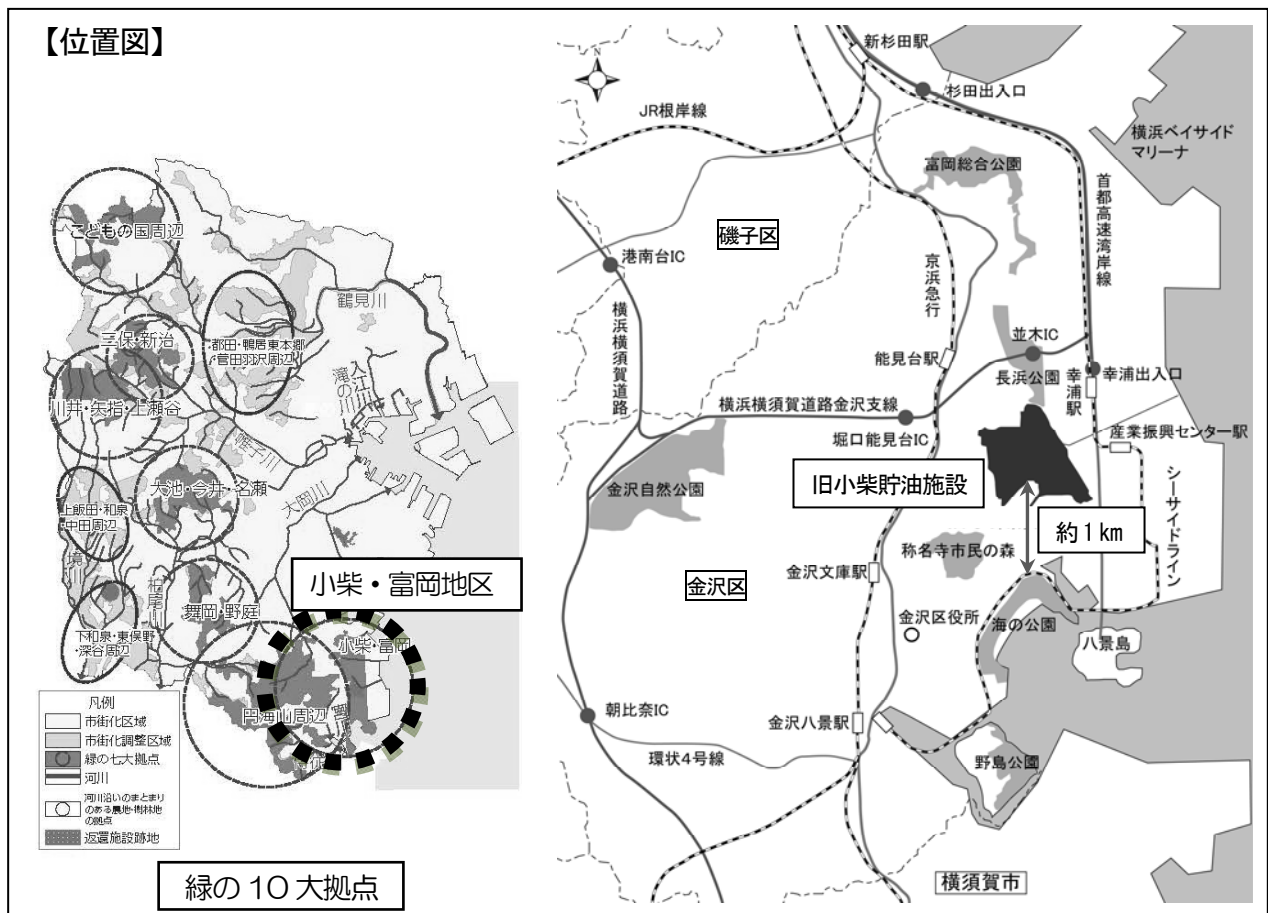
※緑の 10 大拠点「小柴・富岡地区」にあり、「海の公園」から北に約 1km に位置

土地の面積：約 52.6ha (国有地 約 51.2ha/市有地 約 0.4ha/民有地 約 1.0ha)

存置構造物等：貯油タンク 34 基 大型地下タンク(直径約 37~38m×深さ約 28~29m) 11 基
小型地下タンク(直径約 18m×深さ約 20~21m) 14 基
地上タンク(直径約 23m×高さ約 11m ほか) 5 基
廃油タンク(直径 5.5m×高さ 5.5m 地下格納) 4 基

建 物 ポンプ室、変電所、事務所、倉庫等

そ の 他：地下トンネル、パイプライン等



2 基本計画（案）について

（1）名称・公園種別等

名 称：（仮称）小柴貯油施設跡地公園

公園種別：広域公園

面 積：約 55.6ha（旧小柴貯油施設 約 52.6ha／小柴崎緑道 約 2.8ha
／河川管理用通路 約 0.2ha）



（2）公園計画の基本テーマ

「緑からつくり育む環境体感公園」

森と海に抱かれた自然空間を、市民が憩い、集い、楽しむとともに、みどりアップや生物多様性、地球環境の大切さを、市民が感じ、学び、育てる緑の拠点とします。

また、これまでの計画等をふまえ、「緑」、「環境」、「歴史と景観」の3つのつながりに重点をおいた計画とします。

(3) ゾーニング（別紙「2 ゾーニング」）

現在の地形等をもとに大きく4つのエリアに分けてゾーニングを設定し、エリア毎に整備を進めます。

	エリア	エリアの考え方	ゾーニング
第1期	緑の広場空間創造エリア (約13ha)	平坦な地形を生かした広場を中心とした空間とし、緑花も含めた新たな緑の創造を図ります。また、管理センターや駐車場など管理施設を配置します。	草地広場ゾーン
			センター広場ゾーン
			レクリエーション広場ゾーン
			駐車場ゾーン
			小柴崎緑道の一体整備
第2期	里山空間再生エリア (約19.5ha)	柴シーサイドファームに隣接し、ホテルなどが生息する細長い谷戸地形です。生物の生息環境の再生や市民協働による樹林地の保全などを行いながら、農体験もできる里地里山空間の再生を目指します。	谷戸空間再生ゾーン 農体験ゾーン 展望広場ゾーン
	自然環境保全エリア (約7.5ha)	旧来の樹林地など自然環境の保全を基本とします。	自然環境保全ゾーン
第3期	活動・体験・学習エリア (約15.6ha)	地下タンクなどの処理を行いながら、緑の再生を図るとともに、緑や環境に係る様々な活動や体験、学習の場を目指します。	緑化・環境体験・学習ゾーン
			タンク広場ゾーン

(4) 基本計画平面図

別紙「3 基本計画平面図」

3 今後のスケジュール（予定）

平成26年度 市民意見募集（5月～）
環境影響評価手続着手（夏頃～平成28年度）、等
平成28年度 都市計画決定、国有地の無償貸付契約
平成31～32年度 一部供用開始

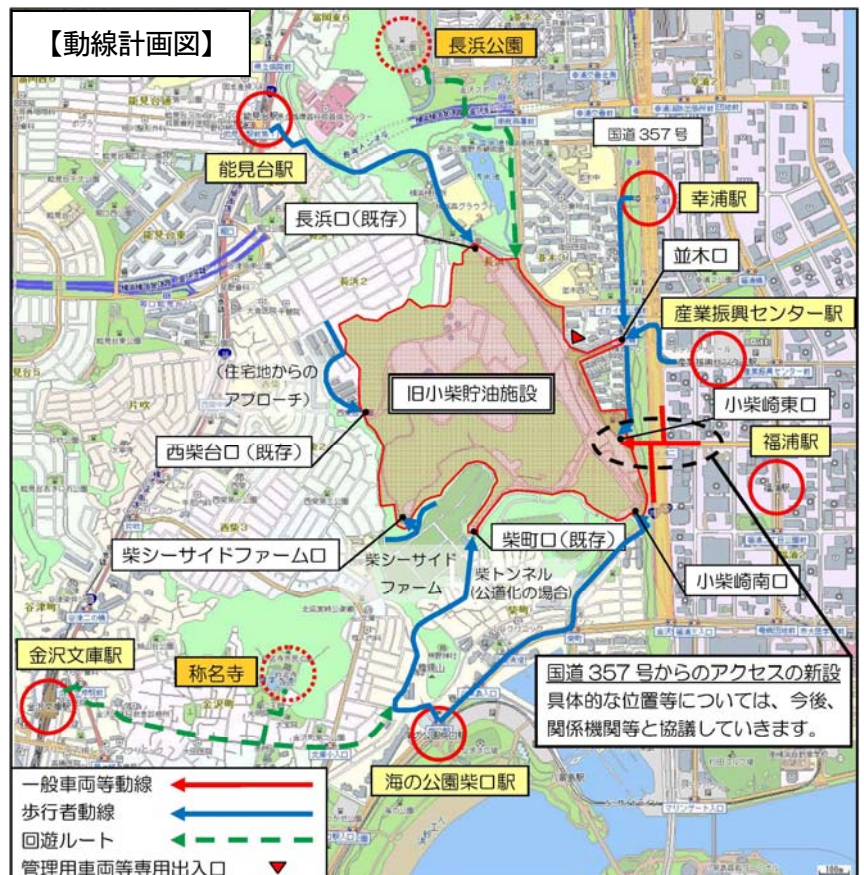
【整備スケジュール（想定）】

	H26～28	第1期 (H29～34頃)	第2期 (H35頃～38頃)	第3期 (H39頃～44頃)
環境アセス 都市計画決定等	→	H31～32 一部供用開始（以降順次供用していきます。）		
第1期 (約13ha)		→		
第2期 (約27ha)		樹林地保全管理・植樹等 →	→	
第3期 (約15.6ha)		タンク処理、樹林地保全管理・植樹等 →		→

※このスケジュールは、現時点での基本計画（案）をもとに想定したものです。今後の整備にあたっては、市民の意見を聴きながら、関係部署と調整していきます。また、整備期間中に随時現地見学会を実施することなどについても検討していきます。

4 主な課題への対応方針

課題	対応方針
貯油タンク処理	<ul style="list-style-type: none"> 整備費の軽減や歴史的経緯への配慮等から、タンクの種類別に次を基本的な方向性とし、平成26年度以降、詳細調査により安全性を確認しながら具体的な方法を検討
	大型地下タンク <ul style="list-style-type: none"> 躯体は撤去せず、埋戻しによる広場等の利用を基本 一部を歴史的遺構として保全活用 埋戻しの土は他の公園緑地工事等から工事間流用
	小型地下タンク <ul style="list-style-type: none"> 躯体は撤去せず、太陽光発電の設置や発生土の処理等に活用
	地上タンク 廃油タンク <ul style="list-style-type: none"> 地上タンクの一部をモニュメント、拠点施設、緑化見本園（壁面緑化等）に活用し、残りは撤去
土壌汚染対策	(現状) <ul style="list-style-type: none"> 国の調査により、タンクや地下トンネル、パイプラインの周辺を中心に、鉛等の土壌汚染を確認 国が地下水汚染対策でモニタリング調査を実施
	(対策) <ul style="list-style-type: none"> 土壌汚染対策法等に基づいて次の対応を基本に処理
	地上部 <ul style="list-style-type: none"> 利用者の立入りを想定し、公園の施設計画に応じて、盛土や置換などの対策を実施 置換による発生土は敷地内の地下タンクを活用して処理
	地下トンネル部 地下水 <ul style="list-style-type: none"> 利用者の立入りを想定しないため、立入禁止等の対策 モニタリング等の調査の実施により監視体制を継続
防災への配慮	<ul style="list-style-type: none"> 広域避難場所を想定し、災害時にも活用が可能な広場を確保 かまどベンチや非常用トイレ等を設けるほか、管理センター等の建物や照明、太陽光発電等の施設が災害時にも活用できるよう工夫
動線計画	一般車両動線 <ul style="list-style-type: none"> 国道357号から駐車場へのアクセスを新設 具体的な位置等については、今後、関係機関等と協議
	歩行者動線 <ul style="list-style-type: none"> 既存ゲートの活用のほか、柴シーサイドファーム口等の出入口や小柴崎緑道と一体利用できる園路を設置



(参考) これまでの主な経緯

昭和 23 年 10 月	旧日本海軍の施設を米軍が接收
平成 16 年 10 月	日米合同委員会において返還合意
平成 17 年 12 月	陸地部分全域と制限水域の一部が返還
平成 18 年 6 月	米軍施設返還跡地利用指針
平成 19 年 3 月	横浜市米軍施設返還跡地利用行動計画
平成 19 年 12 月	金沢区米軍施設建設・返還跡地利用対策協議会要望
	【要望項目】①自然環境・緑の保全について
	②道路・交通対策について
	③公園のあり方について
	④区民意見を踏まえた計画策定について
平成 20 年 3 月	小柴貯油施設跡地利用基本計画（都市公園利用）
平成 22 年 6 月	国が土壌汚染調査の最終結果を公表
平成 23 年 3 月	横浜市米軍施設返還跡地利用行動計画一部改定
平成 24 年 9 月	国から本市に対し、国有地の無償貸付による処理について提案
10 月	金沢区米軍施設建設・返還跡地利用対策協議会開催
11 月	国からの提案に対する本市回答
平成 25 年 2 月	国有財産関東地方審議会の答申を受け国が利用方針決定